

パスカルの生涯と業績

人間は1本の葦に過ぎぬ、自然のうちで最も弱い葦にすぎぬ。しかしそれは考える葦である。これをおしつぶすのに宇宙全体が武装する必要はない。一つの毒気、一滴の水も彼を殺すに充分である。しかし宇宙が彼をおしつぶすときも、人間は彼を殺すものよりも高貴であろう。なぜなら人間は自分が死ぬこと、宇宙が力において自分に勝ること、をしっているからだある。宇宙はそれを知らない。

だからわれわれの品位は、ひとえに、考えるということにある。われわれは考えるということによって自らを高めねばならない、空間や時間によってではない。空間や時間をわれわれは満たすことができない。(パスカル パンセ 野田又夫 訳)

I 生活と業績：略年譜（年齢）1654～1662

1623.6.19. ブレーズ・パスカル、オーヴェルニュ州 クレルモン市に生まれる。父はエチエンヌ・パスカル、母アントワネット・ベゴン。姉（1620年生）はジルベルト。

1625年（2）妹ジャックリーヌうまれる。

1626年（3）母アントワネット（30歳）死す。

1631年（8）父 税務高等法院副院長を辞し、3人の子どもと共にパリに移る。

1634年（11）音響の実験を試み、「音響について」を書く。

1635年（12）ユークリッド幾何学の定理32を独力で証明する。

1639年（16）『円錐曲線試論』を執筆する。

1640年（17）パスカル一家ルーアンに移住。『円錐曲線試論』出版。

1642年（19）父の税務上の仕事を助けるために計算機を考案。以後3年間その試作に専念。

1644年（21）コンデ公に、1645年（22）大法官ゼギエに「献辞および報告」と共に献上する。

1646年（23）ピエール・プチと共に真空に関する実験を追試する。

1647年（24）5月 病気の治療のため妹に付き添われてパリに移住、6月デカルト来訪。

10月 『真空に関する新実験』をパリのマルガ社から刊行。

1648年（25）3月 『円錐曲線論』完成する。10月 『流体の平行に関する大実験談』パリで出版。

1649年（26）計算機制作について国王の特許が与えられる。

1651年（28）『真空論』執筆。父死す。

1652年（29）スエーデン女王クリスチナに計算機献上の手紙を書く。

1653年（30）クレルモンで自由な生活を楽しむ。

- 1654年(31) この頃『流体の平行について』『大気の重さについて』の2論文を完成する。整数論に関心をもち『数序列論』『組合せ』『数の倍数について』『数の累乗の和』書き、パリ科学アカデミーに対し意見書を提出する。この頃『罪びとの回心について』執筆(推定)。決定的回心を経験する。
- 1655年(32) 『初代のキリスト者と今日のキリスト者との比較』『要約イエス・キリスト伝』執筆(推定)。
- 1656年(33) 『プロヴァンシアル』偽名で公判。ロアンネス公の妹君に信仰を励ます手紙を送る。
- 1657年(54) エクス議会により『プロヴァンシアル』は有罪、禁書として指定される。一連の『音調文書』、『幾何学の精神について』『説得術について』『幾何学入門』など執筆(推定)。
- 1658年(35) 宗教論争に積極的に参加、更にアモス・ダトンヴィルの匿名で数学者達に回状によって回答を求める。ポール・ロワイヤルで『キリスト教の弁証論』の構想について講演する。
- 1659年(39) 急激に衰弱状態に陥る。『病の善用を神に求める祈り』を書く。
- 1660年(40) 転地により病状やや好転、ふたたび弁証論の準備にとりかかる。貴族の長子の少年のために「貴族の身分のための3つの訓話」を与える。
- 1661年(38) ジャンセニストの弾圧が激しさを増し、ポール・ロワイヤル「小さな学校」も閉鎖される。妹ジャクリーヌ死去。司教教書に対して「信仰宣誓文に無条件に署名することを命ずる司教教書」を書き友人に託し署名を拒否しポール・ロワイヤルを去る。
- 1662年(39) 1月 施療病人に寄付するために乗合馬車会社を企画。3月 国王の認可が得られる。6月 病状悪化、8月5日 遺言状に署名。8月19日死去、39歳。

II 生涯と死生観

パスカルの生涯は常に宗教論争のさ中であつた。パンセそのものもモンテーニュの『エッセー』に対抗するために書かれ、妹ジャクリーヌとの友愛も熱烈な信仰を無視しては理解できない。パスカルが強い影響を受けたのはジャンセニズムであつた。

ジャンセニズムはフランスを中心に交流した宗教思想であり、神の恩寵と人間の自由についての恩恵論争に際して、アウグスチヌスの恩寵の絶対性を強調する立場である。

* パスカルの死生観 レジメ 冒頭参照

III 文 献

<パンセ> 邦訳書

- 由木 康訳 パスカルの瞑想録 (パンセ) 白水社 1938
(ブランシュビック版 1897年)
- 前田陽一 由木 康訳 パンセ 小品集 世界の名著 24 中央公論社 1966
(ブランシュビック版底 小品 9 篇 解説 パスカルの人と思想 前田陽一)
- 松波信三郎訳 パンセ 世界文学全集 11 モンテーニュ パスカル 筑摩書房 1970
(ブランシュビック版底本 松波信三郎編訳 解説 原二郎 松波信三郎)
- 田辺 保訳 パンセ キリスト教古典叢書 教文館 2013
(初版ラフマ版 1966年)

<研究書>

- ジャン・ブラン (竹田篤司訳) パスカルの哲学 クセジュ文庫 白水社 1994
* デカルト思想と対比して西欧哲学史に位置づける。
- ジャン・メナール (安井源治訳) パスカル みすず書房 1971
* パスカル思想の発展をその生涯とともに著述。(現在：絶版)
- モーリヤック (安井源治・林桂子) パスカルとその妹 実存主義叢書 理想社 1963
〈付録〉I パスカルの傲慢 II パスカルとの出会い
III モーリヤックとパスカル (安井源治) IV 若き日のパスカル (安井源治)
- 塩川哲也 パスカル考 岩波書店 2003
* 当時に至るまでの塩川哲也の研究論文などの集大成。
- 星川哲也 パスカル『パンセ』を読む 岩波セミナーブックス 2001
* 断章の主要課題についての緻密で誠実な読解。
- 山上浩嗣 パスカル『パンセ』を楽しむ 名句案内 40 章 講談社学術文庫 2016
- 田辺 保 パスカル伝 パスカル著作集 別巻 II 教文館 1984
(パスカル研究者による本格的評伝 人名索引 引用・資料書名索引)
- 三木 清 パスカルにおける人間の研究 岩波文庫 1980
(初版 1926 年 日本における最初のパスカル思想の研究書)
- 野田又夫 パスカル 岩波新書 1953
- 田辺 保 パスカル伝 講談社学術文庫 1999 (現在 絶版)
- 伊藤勝彦 パスカル その思想形成の秘密 講談社現代新書 1969
- 伊藤勝彦 パスカル 人類の知的遺産 34 講談社 1981
- 塩川哲也 発見術としての学問 モンテーニュ、デカルト、パスカル 岩波書店 2010

<入門書>

- 鹿島茂 『パンセ』パスカル NHK テレビテキスト 100 分 de 名著 NHK 出版 2012
- 吉永良正 『パンセ』数学的思考 理想の教室 みすず書房 2005